

## 平成26年6月21日（土）の「仏教女性の集い」

梅雨の晴れ間の一日、「仏教女性の集い」は開かれました。ご本尊様の仏花は道場跡地の庭に咲く紫陽花でした。建物は無くなり様変わりをしましたが、自然の力で咲く花は変わらずに美しい色を付けていました。



蒸し暑く、ムシムシとする毎日に身体はカビが生えてしまいそうです。このような梅雨の時期に咲いてくれる紫陽花に心が和み、暑さをスウッと取ってくれる気がします。と、近藤先生は話されてご法話は始まりました。

「仏教女性の集い」でご指導下さっている、南先生が描かれた絵葉書が回覧されました。可憐な花やお坊様と一緒に土筆の絵が描かれた数枚を見せて頂きましたが、その中に描かれていた「貴女 誰の子 仏の子」のフレーズに心が残りました。

この方は5月27日に87歳になられた尼僧様で、何事にも前向きで精力的に日々過ごされております。絵を描かれる事も最近始められたそうです。いつもチャレンジ精神を持って過ごされているお姿を、近藤先生は私たちにお伝え下さいました。

今日は、法然上人御法語「後篇」の巻末に書かれている和歌についてのお話でしたが、法然上人が何歳頃、何処で書かれたものが不明の為、近藤先生は間違った解釈になるかもしれません。と付け加えられておりました。

春の和歌 さへられぬ 光もあるを おしなべて へだてがほなる あさがすみかな  
光は遮らないものなのに、朝霞が遮るようにたなびいています。

夏の和歌 われはただ ほとけにいつか あふひぐさ ころろのつまに かけぬ日ぞなき  
仏様にいつ出会えるのだろう。お会いする日を心に思わない日はありません。

秋の和歌 阿弥陀仏に そむる心の 色にいでば 秋の梢の たぐひならまし  
阿弥陀仏に染まっていく心を色に例えれば、秋に色づく紅葉のようです。

冬の和歌 雪のうちに 佛の御名を唱ふれば つもれるつみぞ やがてきえぬる  
南無阿弥陀仏と称えれば、積もっていた罪が雪のように消えていきます。

阿弥陀様の光はいかなる時も照らし届けて頂いているのに、我々の心が遮ってしまっています。一枚起請文で説かれているように三心四修をもって念仏を申す生き方をしましょう。続けることは難しいが、続ける事が自分自身を育ててくれます。

嫌な事(思い)を吸っても南無阿弥陀仏で吐く、癖をつけていけば、いつか無碍光がある事に気づき心の転換をすることが出来ます。

自分が自分がと言う我が無くなり、縁と言うもので繋がっている事に気がつきます。念仏を主人公にした生き方をして行きましようといつもながらの力強い言葉で、今日のお話は締めくくられました  
(参加者感想 K. O)



今日のお菓子は「水無月」です。  
子供の頃から6月30日「夏越祓」に無病息災を祈って食べていたものですが、そのような風習は京都独特の事でしょうか・・・

本日の参加者に一人の尼僧様がいらっしゃいました。その方は、山中湖で念仏道場を開き、また念仏をしながら全国行脚されているとの事です。『仏教女性の集い』のホームページで近藤先生の写真をご覧になり、以前にご指導を受けられていた先生にお会いしたい思いで参加されました。「尼僧道場の様変わりに驚きましたが、懐かしいと同時に嬉しく思います」と感想を話されていました。

お話を伺うと、東日本震災の際は宮城へと向かわれて念仏されました。これからは念仏をしながら全国を巡る生活を送りたいと話される言葉に「西行のような生き方ですね」と言われる方がいらしたように、念仏の世界に生き抜かれるお姿に、参加者一同は感動をした一時でした。

次回の「仏教女性の集い」は平成26年7月19日です。

「仏教女性の集い」は毎月第3土曜日、1時～4時  
参加費 1,000円 宗教・宗派は問いません。  
条件は女性であることだけです。  
多数のご参加お待ちしております。  
市バス[知恩院前]下車、東へ徒歩150m  
『吉水尼僧庵』(旧尼僧道場跡)で開催致しております。  
問い合わせは 隆彦院 075-561-7581 まで



「仏教女性の集い」の様子は浄土宗吉水会のホームページに掲載しております。

<お知らせ>

近藤先生がご法話下さいました法然上人御法語「前編」が今年出版されます。